

環境アセスメント技術ガイド  
大気環境・水環境・土壌環境・環境負荷

- 環境省総合環境政策局環境影響評価課 監修
- 環境影響評価技術手法に関する検討会 編集

一般社団法人 日本環境アセスメント協会

表Ⅲ.1.1-4 大気質に係る自然的状況として整理する内容の例

区分	整理する内容の例
大気環境の状況	<p>(a)大気質の状況            環境基準が設定された大気汚染物質は、国や都道府県・市区町村の常時監視測定局及び移動測定局の測定データを収集・整理する。有害大気汚染物質についても、国や都道府県・市区町村によって測定されている場合がある。            住宅地などの一般的な生活空間における大気汚染の状況を把握するためには、事業実施区域に最も近隣の一般環境大気測定局データを基本として収集する。周辺の複数局のデータを収集して調査対象地域の特性を把握することも重要である。道路沿道における大気汚染の状況については、対象事業により影響を及ぼすと考えられる路線沿線の自動車排出ガス測定局データの収集を基本とする。            各データは、最新のデータとともに過年度のデータを収集・整理し、経年変化を把握する。これらのデータの多くは、インターネット等で入手可能である。</p> <p>(b)気象の状況            気象観測は、気象台・測候所等の気象官署や大気質の常時監視測定局、学校、市役所等の公共施設において多く行われている。            (a)において収集した大気質データとの整合を図るためには、大気質の常時監視測定局のデータを用いることが最も適しているが、常時監視測定局における気象測定項目は風向・風速等に限定されることが多いため、日射量・雲量等のその他のデータを収集する場合には、気象官署における測定データも活用する。            逆転層等の特に大気質に大きな影響を与える気象現象の可能性がある場合には、気象官署の資料やヒアリングを通じてその状況を把握しておく。また、気象庁より配信されるGPVデータ<sup>1</sup>の使用により、より詳細な気象状況の把握が可能である。</p>
地形の状況	<p>大気質に影響を与える可能性のある平地、山地の別、海域や河川との位置関係や盆地地形等の有無を確認する。</p>
動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況	<p>動物、植物、生態系に関する調査範囲は、通常直接改変地域及びその周辺に設定されるが、大気質の影響は広域に及ぶ場合があるため、大気質の変化による動物、植物、生態系への影響が考えられる場合には、これらの調査範囲をさらに拡大する必要が生じる。また、大気質に係る調査範囲を検討する上で、周辺地域に大気質により影響を受ける重要な植生等が分布すれば、その範囲も大気質の調査範囲として含める必要がある。このような場合は、大気質と動物、植物、生態系の相互関係により、調査の範囲や手法を設定する必要がある。</p>
景観及び触れ合い活動の場の状況	<p>大気質の変化に伴って生じる景観及び触れ合い活動の場への影響が懸念される場合としては、重要な触れ合い活動の場の大気質が著しく変化する場合や、重要な景観資源において粉じん濃度が高くなる場合等が挙げられる。このような場合は、大気質と景観、若しくは触れ合い活動の場の状況の相互関係により、調査の範囲や手法を設定する必要がある。</p>

<sup>1</sup> GPV(Grid Point Value)データ：大気中や地表等に設定された格子点上の気象要素データで、気象庁数値予報モデルに用いられる。

**環境アセスメント技術ガイド**  
**大気環境・水環境・土壌環境・環境負荷**

---

2017年3月13日 初版第1刷発行

監 修／環境省総合環境政策局環境影響評価課

編 集／環境影響評価技術手法に関する検討会

発 行／一般社団法人 日本環境アセスメント協会

〒102-0092 東京都千代田区幸町2番13号  
TEL 03-3230-3583

印 刷／三報社印刷株式会社

本書は、環境省「平成27年度環境影響評価技術手法調査検討業務」報告書を、環境省総合環境政策局の承認（平成28年6月1日 環政評発第1809011号）を得て複製したものである。